

生き生き！ キラキラ！

小 浜 市 立 田 烏 小 学 校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	6回 (のべ) 22日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	6人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	42人
登下校支援ボランティア	25人
その他 ()	

(3) 特色ある活動

テーマ 「ふるさと教育」

具体的活動内容

シーカヤック体験活動

自分の力を信じ、途中であきらめることなく最後までやり遂げることを目標に、9月下旬に5・6年生8名にシーカヤック体験活動に挑戦する行事を組み入れた。目的地は、田烏地区と若狭町世久見地区の漁業権の境界線の目印であるグンダグリという水面下約50cmにある岩である。田烏漁港から約10kmほどの沖合いにある。シーカヤックで行くとなると片道約2時間ぐらいの距離である。8名は不安を感じながらも、全員で往復約20kmの航路を完漕することを目標に取り組んでいくこととした。

7月と9月上旬に、若狭湾青少年自然の家でシーカヤックの試乗を行い、児童個々の漕力の差を見極めて当日のペアを決定した。実施当日の海の情報については地元で漁をする方々に情報をもらうことにした。実施予定の前日には、波の様子などからここ数日は実施はできないという情報を下さり、実施できたのは予定日の6日後の9月28日であった。海に関することは地元の方に聞くことが最良であることを再認識すると同時に、学校の行事に対して非常に興味を持っていて下さり支えられていることに子ども達とともに感謝した。

実施当日は、地域の方々が小旗を手に応援に来てくださった。本校の2～4年生は太鼓で送り出してくれた。不安に思う気持ちを後押ししてくれたのがこれらの応援であった。そして、鏡のように美しい海の中を快調に漕ぎ出していった。距離を保ちながら地元の方の漁船等が見守ってくれているので、子どもたちの顔にはシーカヤックを楽しむ余裕が見られた。しかし、沖に出て行くと静かだった波にうねりが生じ、シーカヤックが上下に揺れ出した。思うようにシーカヤックが進まず、他の艇と離れた艇も見られが、ペア同士声をかけて励まし合っていた。どんなにつらくても漕がないことには岸に着かない、自分だけでなくペアの友達にも迷惑になることを感じ取ったのか、つらくてもこぎ続けていた。往復にして約20km、昼食を含め6時間の体験活動となった。特に帰りは疲労もピークに達し、ただひたすら漕ぎつづけるのみ。互いに励ましあって自分の力を信じて田烏の浜に帰ってきた。また出発同様に小旗と太鼓で出迎えてもらい、心地よい疲労感でいっぱいになっていた。



(写真↑ 低中学年、地元の方の応援)



(写真↑ 2人で力を合わせて力漕)



(写真↑ 全員で目的地に到着)

成果と課題

地域・学校協議会では、学校では見ることができない地域での児童の様子や保護者の考えを知ることができ、具体的な事例を通して「児童の活動のあり方」「地域の関わり方」について協議し、子どもたちの自主性を大切にしたい関わり方を確かめ合うことができた。

本年度末をもって本校は約140年に及ぶ歴史に幕を閉じ、内外海小学校との統合のため閉校となる。児童が内外海小学校に通学するようになってからも、本校の教育指針を受け継ぎ、家庭・地域・学校の三者が手を携え、児童の自主性や判断力を育成し成長するための継続的な支援をしていただいと思う。